

# 企画・セッション

## ①新専門医制度と病院対応

(2日目 10月16日(金) 11:10~12:10 第1会場 北見市民会館 1F大ホール)

## ②日赤医学会呼吸器フォーラム

(1日目 10月15日(木) 10:40~11:40 サテライト会場 北見芸術文化ホール 5F多目的室)

## ③日赤・整形外科の人事交流

(1日目 10月15日(木) 13:10~14:10 第3会場 北見市民会館 1F1号室)

## ④集え研修医！研修医症例検討会「Doctor Cross in オホーツク」

(1日目 10月15日(木) 10:40~11:50 第2会場 北見市民会館 1F小ホール)

## ⑤看護の質の向上を目指して ―看護管理者と専門看護師の協働―

(2日目 10月16日(金) 10:25~11:25 第5会場 北見芸術文化ホール 1F音楽ホール)

## 新専門医制度と病院対応

横浜市立みなと赤十字病院 院長

四宮 謙一

日本専門医機構では、これからの専門医の育成は「研修プログラムを基盤に行うこと」が適切であるとしている。その中で、地域医療の重要性は年々高まっており、基本領域の専門医制度においては地域医療を経験する機会を設けることを強く促している。また、優れた専門医を育成するためには、専門医研修と基礎・臨床研究との両立を図る専門研修プログラムも必要であるとも提案した。

専門研修プログラム制の概要を以下に示す。

1. 各専門医制度の研修カリキュラムのもとで目標を計画的に達成できる。
2. 専門研修基幹施設が中核となり複数の専門研修連携施設とともに施設群を形成する。
3. 専門研修施設群は、専門研修プログラムを構築し、それに基づいて、専攻医の専門医資格取得までの全過程を人的、物的に支援する。
4. 研修修了は研修カリキュラム修了時、「到達目標を達成した」と、基幹施設内の研修プログラム管理委員会が承認した専攻医に与えられる。

日本専門医機構専門研修プログラム研修施設評価・認定部門（以下、PG 部門）は専門研修プログラム形成のために、専門医制度整備指針（H26年）に基づいた専門研修プログラム整備基準の作成を PG 部門内の各領域研修委員会に依頼し、平成27年8月段階ではほぼ全ての基本領域の専門研修プログラム整備基準の承認をおこなった。専門研修プログラム整備基準の大きなポイントは、標準的で優れた専門医育成のため、評価法の統一、研修記録の充実などに加え、領域毎にカリキュラムの統一や専門研修基幹施設と連携施設群からなる専門研修施設群の基準を定めたことである。これらの施設基準については、診療資源や人的資源などを基本に領域ごとに定められている。専攻医数は診療実績と指導医数によって決められるが、概して1人の指導医が1専攻医 /1学年を指導できるという基準になっている。さらに前述のごとく、各専門研修プログラムには地域医療研修を計画すること、リサーチマインド涵養に配慮することなどが課せられている。

専門研修プログラムの施設群構築にあたっては、施設群全体での研修、講習などが容易に行えるように都道府県など比較的小さな範囲内にとどめることを求めているが、日赤などの公的病院グループ内の過疎地域の医療施設や大学診療科が長らく維持してきた地方の病院などについては、遠方であっても施設群に加えることを認めている。

7月から地域での説明会、領域ごとの説明会が頻繁に行われ、専門研修プログラムの構築についての全国規模での理解が進んでいる。日赤病院の各診療科においても、日本専門医機構および学会ホームページに掲載された領域の専門研修プログラム整備基準を熟読し、さらに領域モデルプログラムを参考とした上で、基幹施設あるいは連携施設の選択をしていただきたい。また基幹施設を選択した診療科においては、施設群の形成を含めた専門研修プログラムの構築に即座に取り掛かっていただきたい。

今後の予定であるが、領域研修委員会の指導の下に、平成27年9月末までにモデルプログラムの公示が行われ、その後に全国での専門研修プログラム形成が進められる。平成28年3月には領域研修委員会による評価・認定が終わり、その結果を参考として平成28年4月には日本専門医機構が専門研修プログラムの認定を行う計画となっている。